

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	炭疽病	苗立枯病	褐斑病	褐紋病	菌核病	うどんこ病	茎腐病	根腐病	さび病	先端黄白化症
Zボルドー水	M1		-	-											◎
タチガレン液	32		*a	3									◎		
トップジンM水㊟	1		1	3	◎			◎	◎						
ベンレート水㊿	1		1	3						◎					
クロスアウトFL	50		1	3							◎				
カナメFL	7	劇	1	4	◎					◎	◎			◎	
カンタスDF	7		1	2	◎										
ケンジャFL	7		1	2	◎										
パレード20FL	7		1	3	◎				◎	◎	◎				
ミリオネアFL	7	劇	1	4	◎					◎	◎			◎	
アミスター20FL	11		1	3	◎				◎	◎					
スクレアFL	11		1	3	◎	◎		◎	◎	◎					
ファンタジスタ顆水	11		1	3	◎					◎				◎	
セイビアーFL20	12		1	3	◎					◎					
ロブラール水	2		1	3	◎										
リゾレックス水	14		7	2								◎			
			*b	1			®					◎			
サブロール乳	3		1	3							◎				
トリフミン水	3		1	5							◎				
ラリー水	3		1	3							◎				
セーフガード乳	3		1	3							◎				
サンヨー乳	M1		1	4	◎						◎				
ペンコゼブFL	M3		*c	2				◎	◎						
ゲッター水㊟	1・10		1	3	◎										
ニマイパー水㊿	1・10		1	3	◎	◎				◎					
シグナムWDG	7・11		1	2	◎						◎			◎	

㊟:チオファネートメチル含有剤 ㊿:ペノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く)。*a:播種後及び生育期(但し播種後1~2か月後まで) *b:播種時 *c:収穫開始30日前まで
®:リゾクトニア菌による病害

サヤエンドウ

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟))の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	アブラムシ	アザミウマ	コナジラミ	カメシバ	ハモグリバエ	ダイズクモグリバエ	ウラナミシジミ	マメシクイ	マメシメ	ウリノメイガ	シロイモジマダラメイガ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウムシ	ハスモンヨトウムシ	ヨトウムシ	コガネムシ類幼虫	マメハシムシ	ハダシムシ	ネコブセンチュウ
ゼンターリ顆水	11A	*b	-									◎										
カルホス粉	1B	*a	1																◎			
ダイアジノン乳40	1B	劇	*d	3	◎																	◎
ネマトリンエース粒	1B	*e	1																			◎
マラソン粉3	1B	7	3	◎	◎			モ	◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎	
アディオソ乳	3A	1	3					ナ	◎					◎	◎	◎	◎					
トレボン乳	3A	1	2						◎						◎		◎					
トレボンEW	3A	1	2						◎						◎							
マブリック水20	3A	劇	1	3		ヒ																
アルバリン顆溶スタークル顆溶	4A	1	2	◎			◎	◎	◎													
アルバリン顆溶スタークル顆	4A	*c	1					◎														
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎															
アニキ乳	6	1	3					◎									◎					
アフーム乳	6	3	2														◎					
ニッソラン水	10A	1	2																			◎
コテツFL	13	劇	1	2													◎					◎
パダンSG溶	14	劇	1	3				ナ	◎													
アタブロン乳	15	1	2													◎						
カスケード乳	15	1	2													◎	◎					
ノーモルト乳	15	1	2													◎						
マトリックFL	18	1	3														◎					
ハチハチFL	21A	劇	1	2				ナ														
フェニックス顆水	28	1	2													◎	◎					
プレバソンFL5	28	1	3					◎									◎					
ヨーバルFL	28	1	3														◎					
ウララDF	29	1	2	◎																		
ブロフレアSC	30	1	3						◎							◎	◎	◎				

*a:播種時 *b:発生初期(但し収穫前日まで)
 *c:生育期(但し収穫14日前まで) *d:収穫開始14日前まで *e:定植前
 ナ:ナモグリバエ ヒ:ヒラズハナアザミウマ モ:ハモグリバエ

サヤエンドウ

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病		1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1500倍 カンタスドライフロアブル 1000倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 トップジンM水和剤● 2000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍 ロブラール水和剤● 1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤● 2000倍	
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
褐紋病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤● 2000倍	褐斑病と混同されがちであるが、本病は葉にやや大型の円形病斑をつくる点で区別できる。
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
うどんこ病	生育期	・発病初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 サプロール乳剤● 1500倍 サンヨール(乳) 500倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 ラリー水和剤● 4000～8000倍	施設では2月ごろから、露地では4月頃から発生する。特に収穫期にかけて多い。 ●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
根腐病	播種前	1. 連作を避ける。 2. 登録のある薬剤を確認し、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	病原菌は土壤伝染する。
	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を土壤灌注する。 タチガレン液剤 500～1000倍 3L/m ²	

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い1mm以下の防虫ネットを張る。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤* 1000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	* 豆類(未成熟)での登録
ナモグリバエ	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを株元に散布する。 アルバリン粒剤# 9kg/10a スタークル粒剤# 9kg/10a 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 パダンSG水溶剤 1500～3000倍 アディオン乳剤 3000倍	# ハモグリバエ類での登録
ウラナミシジミ	初冬～春期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 3000倍	伊豆諸島の暖地で発生が多い。
ウリノメイガ	生育期(発生初期)	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフアーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	
シロイチモジヨトウ	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤 1000倍	* 野菜類での登録
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ニッソラン水和剤 2000～3000倍	